



代表質問

詳しい内容は、三重県議会ホームページにてご覧いただけます。

危機管理の基本的考え方

三谷 哲央 議員
(新政みえ／桑名市・桑名郡選出)



問 日本では、災害は起こりますが、アメリカでは、起きることを前提に発生の可能性を小さくし、発生時の被害を最小限とするなどの対策が考えられています。

県の危機管理は、知る、備える、行動するをキーワードに、災害が起きることを前提に考えられているようですが、今回の台風災害ではこれらに基づいた確な対策が取られたのか疑問です。危機管理の基本的考え方をお伺いします。

答

危機管理については、準備、発生時、減災、復旧の4つの段階で対応する必要がありますが、危機発生時には、全体の方向性を一致させることや活動の自治、情報共有の徹底の3つが大切であると思います。



今回の台風12号災害では、情報共有の徹底の部分で、市町の連携に関して情報収集の遅れがあったことから、今後の課題として検証し、危機管理体制の整備を進めていきたいと考えます。

その他の質問事項
○野田新内閣の評価と基本方針
ほか

災害対応で得た教訓を防災対策に

竹上 真人 議員
(自民みらい／松阪市選出)



問 東日本大震災への支援や台風12号の対応を通じて得た教訓として、防災教育の重要性や要援護者の対応、災害対応体制整備、エネルギーの重要性や風評被害の恐ろしさなどが考えられますが、これらの教

訓を生かし、今後想定される東海・東南海・南海地震に向けた三重県の防災に取り組むべきです。

知事は数回現地に行かれています。そこで得た教訓や今後県政に反映させていきたいことなどについてお聞きします。

答

東日本大震災では避難体制や情報収集・伝達などの初動対応の大切さを学び、台風12号では公表する被害情報と現状との乖離などの課題も実感しました。



こうした教訓や課題に対応するため、情報収集方法や被害情報提供の在り方等の検証と改善を図ります。また、市町に対し、迅速な避難体制整備の促進を働きかけるとともに、県の危機管理体制の在り方も検討していきたいと考えます。

その他の質問事項
○医師確保 ほか

防災教育の充実を

中川 正美 議員
(自民みらい／伊勢市選出)



問 釜石市の小中学校では、自分の命は自分で守るという防災教育が徹底されていたことから、東日本大震災においてもほとんどの小中学生が助かりました。県でも、大地震での津波被害が懸念されており、防災対策の推進とともに防災教育の充実に早急に取り組む必要があります。

知事は、釜石の視察で学んだことを県の防災教育にどのように生かしていくのですか。

答

学校における防災対策・防災教育の指針の検討や、災害時に児童生徒が自ら判断し行動できる対応力を身に付けるための教材づくりを進めており、それらを活用した実践的な訓練も計画していきたいと考えます。

また、取り組みを効果的に進めるための核となるリーダー養成も引き続き行っていきます。

その他の質問事項
○知事の政治姿勢 ほか



釜石市長から説明を受ける知事

一般質問

詳しい内容は、三重県議会ホームページにてご覧いただけます。

文中の傍線部分については、5ページに用語解説を掲載しております。